



第28号

発行：長野県弓道連盟
会長 山川茂樹
〒396-0025
伊那市大字荒井3913-3
TEL.0265(72)3060
編集：県弓連広報部
印刷：中央堂印刷社

年頭にあたって

体配の修練を目標に



長野県弓道連盟会長 山川茂樹

明けましておめでとうございます。希望に満ちた新春をご家族お揃いで迎えのことと存じます。

昨年秋頃から百年に一度とも言われている、アメリカ発の金融危機に襲われ、経済不況による派遣社員の契約破棄等景気の低迷が続いております。また食の安全について考えさせられた年でもありました。振り込め詐欺や、凶悪犯罪の増加と犯罪の低年齢化が暗い社会を形成しています。

今こそ武道としての弓道の徳育性が



求められています。新春にあたり明るい社会の形成のために弓道をもって少しでも貢献していきたいものです。県弓連の事業は会員皆様のご協力に



祝射会矢渡

より計画どおり推進することができました。特に会員管理システムは審査部の努力と関係者の協力により軌道に乗ることができました。

この一年会員の活躍は、五月全日本弓道大会有段者の部で四位、五位に入賞、チャレンジ大分国体で少年男子が遠的三位、近的四位に入賞、また全国中学生大会では長野日大中学の男子が団体で入賞するなど目覚ましい活躍がありました。一方全日本弓道選手権大会では高段者の選手の活躍を期待するところでした。一層の奮起をお願いします。昨年は祝射会までの昇段昇格者が例年に比較して少なかったが、錬士・教士の二次で不合格となった人が六名と

数多く残りませんでした。そこで年末の特別臨時審査を目標に、体配を重点に特別講習を実施しました。その結果錬士三名、教士候補二名合格することができました。

このように日頃の体配の修練が如何に大切であるかを強く感じました。

教本に「射は進退周還必ず礼に中り」と述べられているように射と体配は分離したものではなく一体になってこそ立派な射となり、そこに品位が表れるものです。日常稽古の中で、基本動作「や、動作の注意点」について修練を重ね息合いと動作が調和した美しい体配を修得してもらいたい。

本年は全弓連の六十周年記念行事が予定されています。県弓連の行事も常任理事会・事業部会で検討を重ね、立派な事業計画(案)ができました。一月の理事会・評議員会で決定をお願いする運びとなっています。今年役員改選期であります。新しい組織が新しい気持ちで、県弓連の活発な活動の推進役になることを願っています。

本年も会員の皆様には講習会や、審査会、競技会等に積極的に参加して技の向上と体配の修練に励み、正しい弓道を習得して、それぞれの目標に對しその力を発揮することを期待しております。

年頭にあたり県弓連のますますの発展と会員皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念してご挨拶と致します。

チャレンジ！おおいた国体

少年男子活躍す

長野県弓道連盟強化部部长 北嶋 晋

平成20年チャレンジ！おおいた国体は遠く九州の佐伯市(別の話題でも有名になった)で開催されました。ここにその結果報告をさせていただきます。

十月四日の大会初日、成年男子遠的予選が行われました。今年からプロック予選を経ての本国体のため、出場県数は30でベスト8が決勝トーナメント進出となります。昨年よりも厳しい戦いが予想され、ボーダーは2回の合計150点位になるのではないかと各県が踏んでいました。予選1回戦が始まりましたが、得点が伸びません。我が県は立ち順11番目、満を持して登場しましたが、12射10中で得点は66点でした。強化練習の中でコンスタントに70〜80点台を守っていただけに不完全燃焼。2回戦が終わったところで70点以上の県はわずかに4県だけ。2回戦での挽回に期待がかかります。2回戦が始まり、各県依然として点が伸びません。

不吉な予感が脳裏をよぎります。「実力を出し切れ成年男子！」切なる願いも空しく、2回戦は12射11中。的中を上げましたが中心に矢が集まらず55点に終わりました。結局24射21中、合計得点119点で30県中15位の成績でした。ちなみに、決勝進出のボーダーは予想に反して130点でした。本年は遠的に賭けていましたし、練習時に100点台を何度も記録していましたので、本当に残念でした。

同日、少年男子の近的予選が行われました。昨年は20県からベスト8へ。24射19中で1本競射を勝ち抜いて進出し、三位に入賞しました。今年は監督の山浦先生の胃をキリキリ痛めることなく決勝進出を果たしてほしいものです。立ち順16番、大前、落ちが皆中しましたが、中が1中で合計9中なんとか圈内に踏みとどまっています。2回戦10中は欲しいところでしたが、8中

に終わり合計17中。長い旅も終わったかに思われました。しかし、今年も運命の女神はチャンスを与えて下さいました。18中以上が7県で終了し、昨年と同じく3県から1県を選ぶ競射に臨むこととなりました。またまた山浦先生の胃が痛みます。高知県2中、兵庫県2中、長野県は大前、中、落ちがで決勝進出を決めました。2年続きで競射の末での入賞確定です。少年たちの強運と精神力に感動を覚えま

分の中と落ちが赤的中させ、81対73で敗れました。的中は大分11中、長野12中。的中で勝って、得点で負けました。これが遠的のおもしろいところかもしれません。一手による三位・四位決定戦にまわり、山口県に26対33で勝利し、見事三位入賞に輝きました。すごいぞ少年男子。

十月五日大会二日目、少年男子遠的予選・決勝です。実は、成年同様に遠的に賭けてきました。昨年は1点に泣いて決勝進出を果たせませんでした。

同日行われた成年男子近的予選。昨年は準優勝に輝いています。期待がかかる中で、1回戦7中。絶望的な本数でした。2回戦で皆中しても合計19中以上で8県が決勝進出でした。遠的同様大方の予想に反してボーダーは昨年と同じでした。気持ちを立て直すのに時間がかかりそうです。

1回戦これまた各県とも点数が伸びません。我が県の出番が回ってきました。12射11中で62点でした。不本意な結果です。1回戦終わったところで70点以上が3県でした。2回戦12射11中で84点、2回戦での最高得点を出して合計146点で三位の成績で決勝に進出しました。トーナメント1回戦対富山県を66対80で退け、2回戦は地元大分県との対戦です。圧倒的な応援の中、委縮することなく淡々と行射して終盤まではリードしていました。4本目に大

十月六日大会三日目、少年男子近的決勝です。1回戦対青森県を6対9で退け、準決勝進出。相手は昨日遠的に勝った山口県です。相手は9連中し途中で決着がつかしました。11対8で完敗でした。一手による三位・四位決定戦にまわり、広島県に5対3で破れ四位入賞となりました。しかし、遠的と近的の両方に入賞は久しぶりです。本当に良くやってくれました。本年の国体はこうして終わりを告げ

ました。ここに至るまで、二月の厳寒に始まった強化練習に理解を示し、減免で会場を提供して下さいました東御弓道協会、須坂弓道協会、岡谷弓道協会、そして遠的の練習でお世話になりました松本弓道協会の皆様方、本当にありがとうございました。



弓道少年男子近的 4位入賞した
県選抜の(左から)安藤、斉藤、宮島選手



雨力っぱを着ての応援



表彰式のあとの少年男子

ねんりんピック2008に 参加して

選手教士七段 井堀 孝雄

五月二十四日、ねんりんピック県大会兼全国大会予選が開催された。選手には、百瀬稔(松本) 木村 房(飯伊) 水野悦子(飯山) 井堀孝雄(長鉄) 宮川登(上小) 補欠には横川善一(安曇) 土屋明夫(上小) の七名に決定。監督には宮川登さんをお願いした。

全国大会に向け、全員で毎月稽古を計画を立て長野・飯山・丸子・松本・穂高と予定し真剣に取り組みました。旅行の日程は、十一月二十四日羽田空港から熊本空港へ、熊本から霧島市に移動宿泊、弓道場のある川内市に宿泊、開会式のある鹿児島市に移動。

開会式の時には、一校一県の協力校による交流会がスタンドで一緒になり、学校紹介などして昼食会をしながら交流を深め、楽しいひとときを過ごした。

協力校は、大隈半島の南にある内之浦宇宙空間観測所のある肝付町の小学校で、四年生以上で三十五名校長先生を含め先生方と四十名で激励に、「長野県」の五メートルもある横断幕を作り応援してくれたことに心から感動した。

開会式は常陸宮同妃殿下のご臨席で開催され、終了後は交流会・夕食会・開始式等が行われた。

競技は2番立ちで2射場のため、1、2回戦とも朝一番の呼び出しのため閉口した。1回戦8中、2回戦7中の不振に終わり決勝進出はできませんでした。県下各地からの応援メッセージの激励をいただきましたが、ご期待に添えなかつたことを申し訳なく思っております。

終了後は有意義な桜島観光と鹿児島市内を見学して、鹿児島空港へ羽田空港を経て最高の仲間が無事帰長しました。



小諸懐古射院 改築竣工式典と祝射会開催

小諸弓道会の念願であった、小諸懐古射院弓道場の改築工事が無事終了し、去る十一月九日に竣工式典・祝賀会並びに祝射会が開催されました。

小諸の弓道の歴史は、島崎藤村や木村熊二の著書に、明治時代の弓の愛好者の活躍が描写されていますが、懐古園内の野天の弓道時代から現在の場所北の丸跡に、昭和三年小諸町の弓道愛好家六人の先生方の熱意と情熱で、自費で建設されたのが懐古射院弓道場です。三人立ちの小さな質素な木造建築でしたが当時としては東信随一の本格的弓道場でありました。この八十年の伝統ある小諸懐古射院の特徴は、十五畳の座敷と畳の脇正面を備えた和式弓道場です。更に大きな特徴として、四百年の古城の自然が醸し出す雰囲気の中で、多くの観光客と射手が直接対話出来る位置にあり、観光客に感動を与えることが出来る珍しい弓道場です。この弓道場の建設を契機に小諸懐古射院弓道会が発足しま

した。終戦後、小諸懐古射院弓道会は、占領下の混乱の時代を切り抜けて、昭和二十三年には既に県下弓道大会を開催、昭和二十四年に長野県弓道連盟の設立に参画、昭和二十五年に小諸弓道会と改称すると共に、小諸町体育協会設立に加盟しました。昭和二十七年には、第一回上信越弓道大会が開催され現在まで継続しています。明年四月に落成記念大会として第六十五回大会を開催する予定であります。

しかし、八十年を経て建物が老朽化したため、昨年七月に小諸市へ建替えの要望書を提出しました。今年に入り小諸市及び崇敬会のご配慮により、文化遺産として存続が認められ、改築が決定されました。多くの関係者のご努力で約四ヶ月の短い期間で、旧来と同じ形式の完全木造平屋建ての美しい弓道場が完成しました。

竣工式典では、芹澤小諸市長、中屋滑川市長のご挨拶と、五人の来賓・主催者の方によるテープカットに続き、

古式装束姿の県弓連副会長清水教士と上田弓道協会会長高井教士による「塚固めの儀」、清水教士による「巻藁射礼」、小諸弓道会長による「矢渡し」と滑川市長御夫妻による「一つの射礼」を披露して頂きました。普段はあまり見ることが出来ない厳肅な儀式を目の当たりにして、全ての招待者から感動と賞賛の言葉を戴き、盛会裏に式典を終了しました。祝賀会の後、祝射会に入り、東信地域の四人の教士の先生方による「一つの射礼」に始まり、東信地域の代表者と小諸弓道会員による「持ちの射礼」を行い、最後に相原錬士に

よる「答射礼」を行いました。厳肅の内にも和やかに全ての行事を成功裏に無事終了することができましたのは、上田の先生方始め、小諸弓道会員の皆様や小諸市職員他関係者のご協力の賜物と深く感謝しています。今後は、私達小諸弓道会員の使命として、先輩達が残されたこの文化の殿堂を継承して、この素晴らしい風情溢れる小諸懐古射院を弓道だけでなく、多くの人々に愛し利用して戴くように頑張つてゆく決意であります。

小諸弓道会長 笹本常夫



巻藁射礼(清水副会長)

平成20年度



11月23日/塩尻市営/参加者89名
被表彰者 20名

平成20年度の昇段・昇格・全国大会
入賞者等を祝う祝射会(前年度まで弓
道祭)が盛大に開催された。

山川茂樹会長の祝辞のあと、各種受
賞者に感謝状と記念品が贈られ、受賞
者を代表して、降旗昭雄教士が謝辞を
述べた。

被表彰者(敬称略)

県知事表彰 山川茂樹(上伊那)

県有効章 高井忠史(上小)

昇格者

教士

大久保まき子(長野)

降旗 昭雄(諏訪)

小池 正夫(諏訪)

土屋 義雄(中高)

古川 忠司(飯伊)

錬士

下平 春夫(飯伊)

花岡のりこ(諏訪)

第59回全日本弓道大会

有段者の部

第4位 志村 仁(諏訪)

第5位 柴 種徳(上伊那)

第5回全国中学生弓道大会

男子団体の部

第5位 長野日本大学中学校

監督 武藤 英見

選手 小杉 竜二 井出共栄

堀内竜太郎 轟 拓磨

第63回国民体育大会

少年男子遠的 第3位

近的 第4位

監督 山浦 博(岩村田高教諭)

選手 安藤 直貴(須坂東)

斉藤 秀和(岩村田)

宮島 凌(上田東)



謝辞を述べる降旗教士

表彰式に引き続き、山川茂樹会長の

矢渡し(第一介添 平野英孝広報部長

第二介添 松澤英男理事)が行われ、

祝射一手、被表彰者の答礼射、一手皆

中者による射詰競射が行われた。



国体少年男子による答礼射

祝射会射詰競射の結果

優勝 勝 斉藤 秀和(岩村田高)

準優勝 宮阪 和久(中高)

3位 中村 宏(諏訪)



優勝の斉藤選手

第38回北信越

弓道選手権大会

11月9日/新潟県上越市弓道場

(団体)

男子有段者の部 36射

長野県31中(志村11中・市川10中・

中村10中) 富山県29中 新潟県

28中

女子有段者の部 36射

長野県25中(丸山9中・林7中・高

山9中) 新潟県24中 福井県21中

称号受有者の部 36射

富山県27中 福井県24中 長野

県24中(押金9中・花岡8中・土屋7中)

(個人)

男子有段者の部 12射

藤田(新潟県)12中 志村(長野

県)11中 萩原(富山県)11中

女子有段者の部 12射

田部(新潟県)9中 丸山(長野

県)9中 大澤(新潟県)9中

称号受有者の部 12射

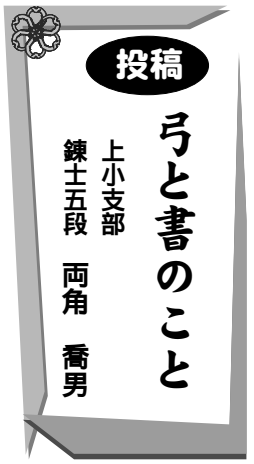
岡本(富山県)12中 細川(福井

県)11中 山本(福井県)10中

総合

長野県15点 富山県11点 新潟県9

点



私が弓道を始めるようになったのは上田市営テニスコートで早朝、軟式テニスを楽しんでいたら、当時国立東信病院に勤務していた上条清志氏が両角さん弓を始めないかと誘われたのが、きっかけで何となく興味が湧いて当時上田城跡公園内の本丸跡近くにあった上田市営弓道場をのぞいたものだった。今から35年位前のことです。当時は若さも手伝ってテニスコートで軟式テニスをやって汗をかいてから弓道場へ行き替えて弓の指導を受けたものでした。初心の私を指導して下さったのは今は亡き今井善治郎先生であった。その後長い間指導を仰ぎながら各地の審査に向かい、昭和51年に五段、昭和56年に錬士を取得出来たが、以来中央審査を数多く受けて歩いてもそれ以上のもので得られず、随分と悩んでしまった。然しそれを補ってくれたものが書道であり篆刻の世界でありました。



「静黙治道」と塚幕に記毫する筆者

書は学び始めてから45年の歳月が経過しました。然し書の道も弓道と同じで深く広大である訳でしてその学書が挫折することなく、さらに奥行と幅をもたせ自分の身についたものとするために一層この道に進進していかねばならない筈です。弓を習い始めて数年経った時、来田された村田先生を知り悩んでいたことをふと思いつて長野の村田弘美先生に質問の書簡を送ったところ先生から懇切丁寧な手紙を頂戴しました。今は亡き先生の教えは貴重であり是非皆様に読んで頂きたいと思いで下手紙の内容について書きます。『大変御鄭重な御書面にて恐縮を致しております。貴重な御体験を大切に頂いて頂く事をまっぴらお願いを致します。』

弓は理論より実践が先であり体で知った射技射法でなければならぬと私は信じて居りますので今後も体で覚えて頂き度く存じます。そこで御質問の弓の強弱ですが、私そのいづれが良く合った力かは拝見を致して居りませんので御持ちの弓については申し上げられませんが、拝見した御書面によりまして、弱い方で正しい射形射技を充分に身につけられる事を私はおすすりめ致し度く存じます。教本第一巻、射法射技の基本の中で第一に在りますのが弓の抵抗力であります。弓と云う道具によって射と云うものを表現するには自己の体力にに応じた力の弓を使用すると云う事は一番大切な事である筈です。良く二丁の弓で肩入れの出来るものものうちの丁が自分の力に合った弓だと云われますが試みて頂きますと解りますがこれは相当弱い感じのもので、昔時から稽古には弱いもので所謂、内志正しく外体直くしての実際を味い憶える大切さを教示されて居ります。

以下次号へ

**高等学校
新人体育大会弓道競技会**

10月18日～19日/塩尻市弓道場

- 男子個人 12射
- 今村 魁(岡谷南) 12中
- 平澤 一平(飯田風越) 11中
- 藤澤 一樹(豊科) 11中
- 女子個人 12射
- 田中理絵(塩尻志学館) 11中
- 久保田真衣(長野西) 10中
- 竹内 瞳(長野吉田) 10中
- 男子団体
- 田川(三澤雄太・御小柴裕大・中島英樹・大月直樹) 18中
- 下諏訪向陽B(中山翔平・赤羽聡志・清水帝斗・小口嗣弥) 17中
- 伊那北(戸谷光平・田畑翔一朗・春日宇光・吉田典史) 16中
- 女子団体
- 松本深志B(小林春香・小林あゆみ・滝澤祥子・山岡美菜) 18中
- 塩尻志学館A(田中理絵・中村理恵・塩原日都美・百瀬佳奈子) 17中
- 岡谷南A(濱怜子・宮澤奈美・林優妃) 14中



苦節二十年で掴んだ合格

教士六段 古川 忠司

去る十一月一日、明治神宮の全日本弓道連盟中央道場で行われた定期中央審査において、二十年ぶりに「弓道教士」号を頂くことができました。百六十人ずつの4射場の受験者で、最終合格者は約2〜3%、二人しか合格できない射場もありました。

一緒に稽古したり受験してきた弓士の方や諸先生方から多くの祝福の電話を頂きました。自分が今日有るのも指導して下さいました先生方はじめ周囲の方の御陰であると感謝の気持ちでいっぱいです。特に今まで嫌な顔もせず、こころよく審査に送り出してくれた家内や母親には心から感謝しています。今まで二次試験を七回挑戦しましたが、作法を間違えたりの中でさすがに不合格になっていました。娘達からも「二十年浪人して東大に合格したようなものだね、おめでとう！」とメールを貰いました。毎回不合格で落胆して帰宅する格好悪い父親でしたが、諦めないで続けることの大切さは娘達に伝わったと思います。次女が浪人して悲しい時に、「お父さんも弓で頑張ってるんだから、一浪くらいでへこたれてちゃいけないね」と言ってくれた時は涙が出ま



した。母・妻・長女は弓道の経験があるので、次女が弓を習い始めて、一日も早く自宅の志誠館弓道場で家族が弓という共通の目標に向かって支え合える日が来ることを願っています。大学へ通う娘達もこれからが大変で、長女は教員採用試験、次女は医師国家試験の難関にチャレンジしなければなりません。私もさらなる難関である七段を目指して、努力し挑戦する姿を娘達に示していきたいと思えます。

そのために「現代弓道の修練目標」に在るように、車の両輪の関係にある「射法・射技」と「礼に即した体配」とが熟達するべく修練に励み、「射品・射格の向上」と「人間完成」の実現を目指したいと思えます。

最後に、「教士」は弓道連盟の指導者であり、初心者の模範となるべきことを心に銘じ、油断のない起居進退に心がけ、不断の努力を通して正しい知識と基本を身につけて参りたいと思えます。

私と弓道

信州大学医学部弓道部五年

川上 徹

私が所属している弓道部は、信州大学医学部の医学科と保健学科の学生、およそ三十人弱から成る、こじんまりとした部活です。週に三回全体練習があり、そのうち一回は教士六段百瀬正先生にご指導



いただきながらやっています。その百瀬先生から、「私と弓道」という題で文章を書いてみないか」とのお言葉をいただき、僭越ながら、投稿させていただくことになりました。

私が弓道をはじめたのは今から七年前、滋賀県のある高校の部活からでした。入部の動機は曖昧でしたが、日を経るごとに練習にのめり込んでいき、弓のことを考えない日は無いほどでした。高校の先生が教える弓は、その先生が独自に工夫を加えた、全く教本どおり

とはいかない弓でしたが、練習時間が少ない中で、出来る限り弓の楽しさを教えようとして下さる結果のものでした。今でも弓を続けていられるのはその先生のおかげだと大変感謝しています。

大学に進学しても弓道を続けたいと思った私は、医学部の弓道部があるところを選び、百瀬先生のご指導のもと、ほぼ一から弓を教わることとなりました。高校時代の癖に苦しみ、自分でも伸び悩みを実感しながらの練習でしたが、練習しないよりは

した方が上手くなる、と信じて何とか続けてきました。結果、弓の実力はどうかわかりませんが、辛抱強く続けることの大切さや、人に指導してもらえなかったのありがたさなどを学ぶことができました。これら弓道で学んだことを社会に出たときに活かせれば幸いです。今後、少しずつでも弓を引いていきたいいな、と思っています。

第27回全国高等学校選抜大会 長野県予選会

12月6日/小諸市総合体育館

男子決勝トーナメント

第一回戦(一人4射1チーム12射)

上田 9中 5中 岩村田

松本深志 5+3中 5+1中 岡谷南

飯田風越 8+2中 8+1中 須坂

豊科 8中 7中 下伊那農業

準決勝

上田 8中 6中 松本深志

豊科 9中 6中 飯田風越

決勝

上田 11中 8中 豊科

男子成績

第一位 上田高校(山極健太郎・福沢

潤哉・宮坂祐司・清水北登)

第二位 豊科高校

第三位 松本深志高校・飯田風越高校

女子決勝トーナメント

第一回戦(一人4射1チーム12射)

岡谷南 9中 4中 長野日大B

田川 7中 5中 上田東

飯田女子 8中 4中 上田染谷丘B

赤穂 11中 3中 長野西

準決勝

岡谷南 7中 5中 田川

赤穂 10中 8中 飯田女子

決勝

岡谷南 7中 4中 赤穂

女子成績

第一位 岡谷南高校(濱怜子・宮澤奈

美・林優妃・両角侑子)

第二位 赤穂高校

第三位 田川高校・飯田女子高校

審査合格者

北信越三県連合審査

10月19日/飯田

参段の部 久保 肇(大北) 竹内美

和(飯伊) 宮脇有希子(飯伊)

四段の部 高山寿恵(飯伊) 池田豊

子(諏訪)

五段の部 永目 実(信大) 川俣

晃(上小) 久保コト(長野)

定期中央審査

11月1日/東京

教士の部 古川忠司(飯伊)

特別臨時審査

12月21日 東京

練士の部 荒井 保(安曇)

大和邦浩(塩尻)

高畑正之(上小)

教士の部 荒井 清(飯伊)

伊藤 晋(飯伊)

弓仲間紹介

白田弓道会

白田弓道会長 日向 力

白田弓道会は創立が昭和三十四年五月。現在会員数は二十四名。

弓道場の開設は、当時、佐久地方では小諸懐古射院が主体で、南佐久の弓士は小諸で稽古をする人が多かった時代、日暮千曲先生、関口利治先生(故人)ほかを中心になり、南佐久支部として長野県弓道連盟に参入した時期と機を同じにしています。



に諏訪からも弓士の皆さんが参加され、盛んな交流が行われています。賞は一位二十位のほかに当日賞と射技優秀賞(一般・高校生三段以下)があり、その中身は、矢筒を始め全て弓道グッズであることが特徴です。来年も多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

例会は、毎月第二週の土曜日とし、金的・近的二十射で行っています。時には、会員以外の方の参加もあり、互いに助言し合ったりし、向上への意欲を燃やしています。例会が終わった後の反省会では、明るい雰囲気の中、くつたのない言葉が交わされ、時には昔話に花が咲いたり、仲間の絆を深めています。昨年から十月例会を軽井沢「木鶏館」で開催。また、野辺山「洗心道場」の弓道大会(四月)への協力を含め、「和」の連帯感強く、弓道の輪が広がってきていると思えます。日暮先生を師範とする当弓道会は、的中至上主義をとらない「仁の道」としての弓道理念にたち、週一回、体配と射技のご指導を仰ぎ、射の完成に向けて互いに切磋琢磨しています。

「野沢に土地を借りて塚をつくり、野立ちで始めようとしたが、土地問題でこじれてやむなく白田町(現在は佐久市)の稲荷山公園に、塚を取り壊して運んだ。そこでも町との話し合いに手間取り、昔子供の遊び場だった笹藪を切り開いて矢道を作り、塚だけ町に造ってもらって道場開きをした」(「長野県弓道連盟史」P200掲載)とあるように、様々な苦難を克服し、現在あるような道場に整え、維持してきている歴史があります。まさに手造り道場といわれる所以です。

毎年開催される「小満祭弓道大会」(五月)は、今年で第四十四回を迎え、例年百五十名を超える参加者があります。近年では東信ばかりでなく、群馬県のほか

最近の弓道修練の中心課題は、以前からの「射行は流水の如く、残身(心)は開花に似たり」に加え、「息合いに伴つ完全なる会の構築」です。

各地大会



第6回千曲市長杯弓道大会

10月12日 / 千曲市弓道場

参加者 24名

一般の部 8射

米澤美智子(千曲) 7中 林 英彦

(中高) 7中 飛知和明弘(上小) 6

中 堀内忠和(長野) 6中 樋口浩明

(須高) 6中

数本光敏

第28回池田町秋季弓道大会

10月13日 / 池田町弓道場

参加者 150名

一般団体の部

中信コモンズ(征矢理啓・中島淳児

・卯之原智也) 池田(吉野恒夫・大

矢誠・窪田和恵) 安曇(布野起・渡

辺晃・丸山萬佐巳)

高校団体の部

大町北高(杉谷恵美・宮下佳那子・

白澤美佐) 豊科高(宮下貴志・小林

佑輔・岡本将浩) 大町高(降旗和美

・平林千佳・西田瑞貴)

個人の部(高校・一般共通)

和田多門(大町高) 窪田和恵(池

田) 征矢理啓(中心コモンズ)

片瀬 茂

第6回千曲市長杯弓道大会

11月3日 / 千曲市弓道場

参加者 346名

高校男子団体の部

須坂B(青木寛翔・矢嶋晋平・宮前

良平・宮嶋俊樹・黒岩祥平)

長野日大B(川端・北原・西山・倉

石・川口)

長野西B(中山・小林・幅下・古沢

・荒井)

高校女子団体の部

長野日大B(梅原萌花・鍋木由希奈

・森友里恵・山田佳奈・滝沢知世)

須坂B(太田・鈴木・江村・田中・

児玉)

長野商B(南沢・高橋・朝倉・廣田

・風間)

数本光敏

第20回松本城お城まつり奉射弓道大会

11月3日 / 松本市弓道場

参加者 高校生156名 一般85名

高校男子の部 8射

窪田 竜(豊科A) 7中 岡本将浩

(豊科B) 6中 丸山直哉(深志A)

6中 細川 薫(深志A) 6中 橋本
勇希(梓川A)

高校女子の部 8射

奥 晴香(豊科) 7中 井原由記子

(田川C) 6中 中山菜美(大町A)

6中 太田明里(田川C) 5中 鈴木

沙也香(木曾清峰A) 5中

一般の部 8射

亀岡英司(南佐久) 7中 清水伸浩

(諏訪) 7中 相澤勝浩(諏訪) 7中

中村 宏(諏訪) 7中 浅輪弘子

(長野) 6中

杉田 博

第43回飯島町県下弓道大会

11月16日 / 飯島町弓道場

参加者 174名

学生個人の部 8射

小木曾 努(下伊那農A) 8中 中

村彩乃(辰野A) 8中 宮澤奈美(岡

谷南女子A) 7中 今村 魁(岡谷南

男子A) 7中 大下直人(伊那北B)

7中

一般の部 8射

阿部直登(弓魂B) 8中 笹岡達也

(弓魂A) 7中 松枝敏広(豊丘) 7

中 市川隆光(弓魂A) 藤澤敏子

(飯田かざこし) 6中

団体(トーナメント戦)

豊丘(林 玲子・高山寿恵・松枝敏

広) 岡谷南女子A(濱 怜子・宮澤

奈美・林 優妃) 伊那A(平澤孝一

・久保田智恵・手塚信一郎)

射詰賞

小木曾 努(下伊那農A) 8中

中村彩乃(辰野A) 8中

阿部直登(弓魂B) 8中

山口安彦



成年男子一次予選通過者

成年男子 13名

篠沢英次(佐久) 松井幸彦(安曇)

亀岡英司(南佐久) 森山敏広(上小)

市川隆光(諏訪) 石田 真(飯山)

志村 仁(諏訪) 中村 宏(諏訪)

内野貴文(松本) 下島俊明(上伊那)

為田祐介(上小) 細田将弘(上伊那)

林 英彦(中高)

成年女子 10名

栗林 薫(松本) 高地美佐子(上小)

浦野恵未香(上小) 竹内美和(飯伊)

山田静香(上伊那) 高山寿恵(飯伊)

武田礼子(中高) 原 美雪(諏訪)

中村美穂(上伊那) 丸山真弓(安曇)

会議報告

10月25日/松本市弓道場会議室
常任理事会

- 〔議題〕・20年度事業進捗状況について
- ・20年度予算の執行状況について
- ・21年度事業計画(案)について
- ・21年度予算方針について
- ・役員改選について
- ・その他

11月24日/松本市弓道場会議室
常任理事会

〔議題〕・20年度事業報告について

平成20年
ご冥福をお祈りします

- 錬士六段 吉澤 清 (大北)
- 錬士七段 小林岩男 (長野)
- 錬士五段 熊川賢治 (須高)
- 参段 村松賢志 (飯伊)
- 錬士七段 遠山 肇 (飯伊)
- 錬士六段 春原一郎 (上小)
- 錬士五段 広田セイ (松本)
- 壹級 畑中香志 (松本)

訂正 前号(第二十七号)一頁サブタイトル中、射道精進を射道精神と表記してしまいました。訂正のうえお詫び申し上げます。

- ・20年度決算の概要について
- ・21年度事業計画(案)について
- ・21年度予算(案)について
- ・行事日程の調整
- ・その他

12月5日/塩尻市中信会館
事業部会

- 〔議題〕・平成20年度事業について
- ・平成21年度事業計画(案)について
- ・その他

今後の会議予定

- 21年1月11日 理事会 塩尻市
- 1月25日 評議員会 塩尻市

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。会員の皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

先輩の高井広報部長から「弓道なご」を引き継ぎ、一期二年が過ぎようとしております。巻頭を飾っていただきました会長・副会長の先生方はじめ多くの皆様の温かいご支援ご協力をいただき、計画どおり発行できておりますことに心から感謝申し上げます。

広報誌では、皆様の身近な話題から、地区大会、全国大会、講習会、審査会

などの報告を載せることにより、会員の皆様の励みになればと考えております。また全弓連の機関誌「弓道」の編集長から「わが地元にはこんな、とっておきのトピックスがあるぞ」と全国の読者に伝え、自慢したい、そんなコーナーを作りた。もう一つのテーマとして「道場のことば」という新しいコーナーとして、各地の道場に掲げられている扁額は、含蓄ある言葉の宝庫と思われまので、その意味や弓への教訓、揮毫者を紹介したい。との要請がありますので、お近くの広報部員を通じて教えていただければありがたいと思います。

今年も皆様方に親しまれ、読んでいただける誌面づくりにスタッフ一同頑張りますので、温かいご指導をいただきますようお願い申し上げます。

平野英孝

投稿してほしい

論文・随筆・弓矢にかかわる各地の祭事や神事・歴史などなんでも結構です。大会の写真等も紙面を生かします。ぜひ傑作がありましたら送ってください。

謹賀新年

全日本弓道具協会会員

中島弓具店

有限会社



限りない弓道心に
真心で御手伝い



〒380-0935

長野市中御所1丁目12番5号 TEL 026-228-3443 FAX 026-223-4855